



誰もが“働きやすい豊島区”をめざして ～WLB先進都市に向けた提案～

WLB



誰もが“働きやすい豊島区”をめざして
～WLB先進都市に向けた提案～

2014年12月11日



チームWLB

メンバーの紹介

鮫島一彦

WorkもLifeもあきらめない！

清水綾乃

WLB推進しないと日本が破滅します！

菅森朝子

WLBが“当たり前”の時代が来ます。

WLB

田中あゆみ

WLB = 経営戦略

横田祥子

WLB、知らなきゃ損！？

森直美

WLBはみんなの問題です！

AGENDA

1. なぜWLBか？
2. プランの構成要素
3. プランの全体像
4. 具体的なプラン～としま100人社長会～
5. その他のプラン
6. 補足資料

2

1. なぜWLBか？

社会構造の変化



仕事と生活の調和（WLB）の必要性

介護

「介護離職」

健康

メンタルヘルス

がん

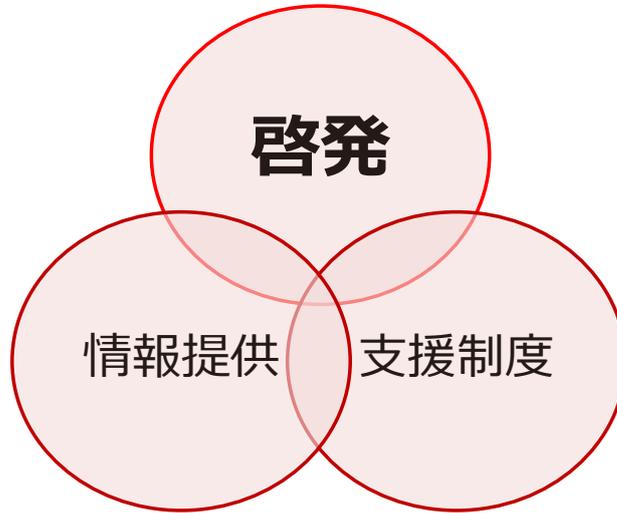
育児

子育て

3

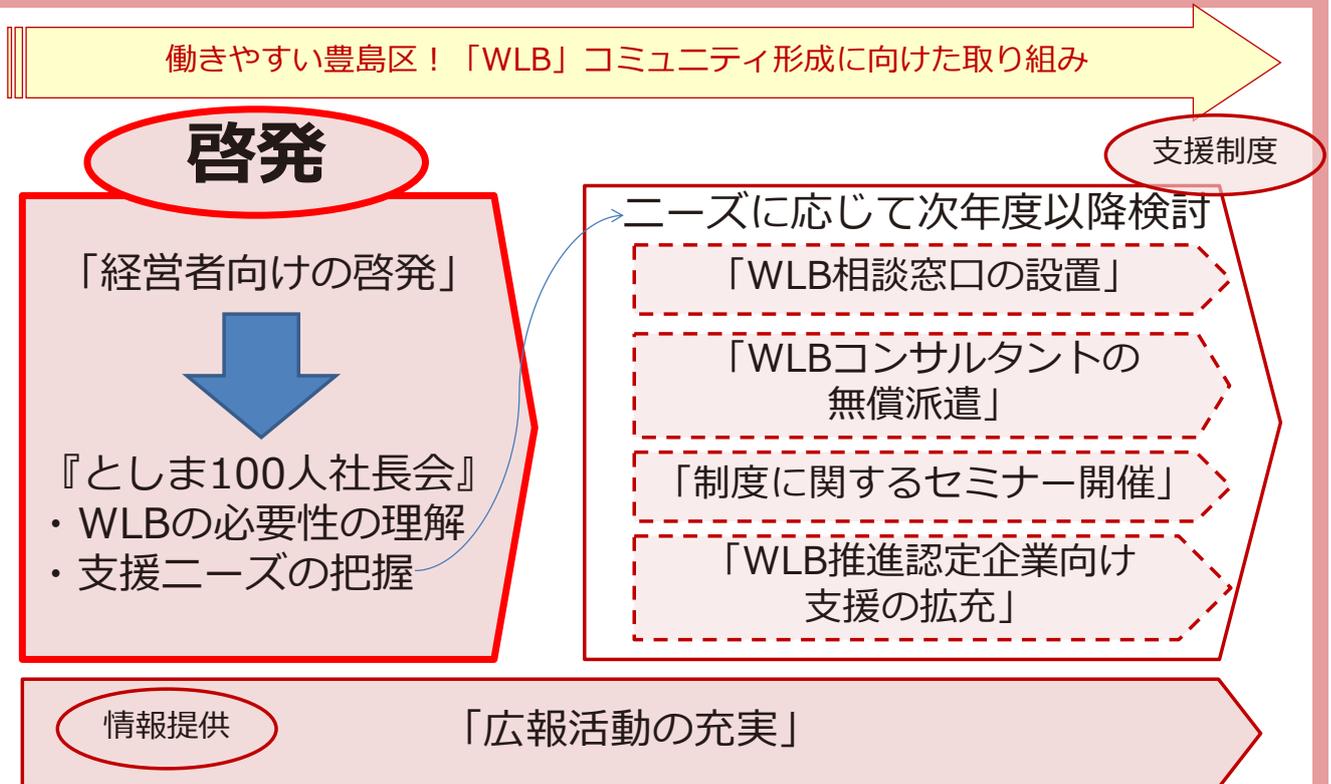
2. プランの構成要素

働きたい人がみんな“イキイキと”働ける
WLB先進都市「豊島区」にするための3本柱



4

3. プランの全体像



5

4. 具体的なプラン～としま100人社長会～ 1/3

対象

豊島区内に事業所がある会社の社長（及び経営者、人事担当者等）

目的

- ・ 社長が社員または自身のWLBについて考えるきっかけとする。
- ・ 区にどのような制度等があったらWLBに取り組みやすいか、ニーズ調査を行う。

内容

- <導入>
- ・ 100人社長会を開催するに至った経緯、WLBを取り巻く現況の説明（介護・育児・健康との両立等→問題提起）
- <事例紹介>
- ・ WLBの推進により、会社の業績が上がった成功事例の紹介
- <話し合う題材>
- ①働きやすい職場とは？
 - ②WLBを推進するとどんなプラスの効果があるか？

6

4. 具体的なプラン～としま100人社長会～ 2/3

提案理由

WLBを推進していくには、まずは企業のトップにWLBの重要性を理解してもらう必要があるため。

実施主体

区（コーディネーター役は委託）

ポイント

- ・ 集客のために他部署と連携
- ・ としま100人女子会とのコラボ
- ・ 細かい調査についてはアンケートを実施

7

4. 具体的なプラン～としま100人社長会～ 3/3

TOSHIMA
PRESIDENT
World Bar
Open 19:00 April 1

消滅か 存続か。

100人社長会
ワールドバー
@豊島区

DEAD or ALIVE

あなたの会社は生き残れるのか！？
WLBを無視する企業は良い人材から選
ばれない？！

- 1 講演
「WLBと中小企業の経営戦略」
～成功事例を中心に～
- 2 ワールドバー開会宣言
豊島区長 高野之夫氏
「消滅可能性都市と
消滅可能性 企業」
～豊島区がWLBを推進する意味～

豊島区内の会社同士、一杯
やりながら、ワークライフバ
ランスについて本音で語って
みませんか？



8

4. 具体的なプラン～更に！～



9

5. その他のプラン 1/2

WLB相談窓口の設置

- ・WLBに悩む企業や個人が相談できる環境を用意。
(例) 自身の所属する組織へ相談しにくい場合、
育児・介護・健康面等で仕事の継続に悩んでいる場合 等

WLBコンサルタントの無償派遣

- ・コンサルタント派遣により各企業の実情にあった制度設計を支援。
(例) 育児・介護休業制度の導入 等

制度に関するセミナー開催

- ・セミナーを通じ区が定期的に新制度や制度改正等の情報を発信。
→自社で情報収集が困難な企業でも、常に最新情報の把握が可能。

10

5. その他のプラン 2/2

WLB推進認定企業向け支援の拡充

- ・既存の支援制度に新たな支援制度をプラス。
→特に、企業のWLB推進意欲の高まる支援制度を追加。
(例) 区の媒体を通じた企業広告（無償もしくは割引）
⇒経費削減
スポーツ施設等の区施設利用の際、利用料を一部免除
⇒経費削減 + 社員の健康促進

広報活動の充実

- ・各種広報媒体でのWLBに関する情報提供。
・区の広報による取材やマスコミを通じてのPR。
→区や区内企業の取り組み等を広く周知。
⇒情報発信の強化により情報格差を解消。

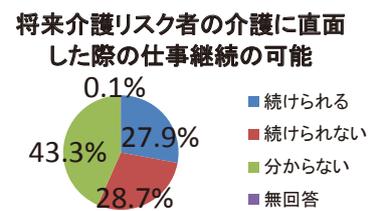
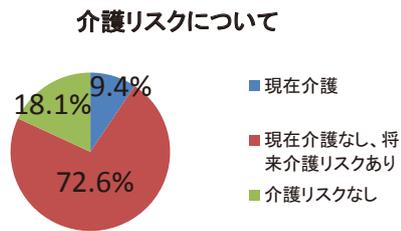
11

6. 補足 ～背景・理由～ 1/3

介護

- ・企業に勤める40歳以上の社員の仕事と介護の両立に関する調査では、約1割が「現在介護」、約7割は「現在介護なし将来介護リスクあり」と回答している。
- ・働き盛り世代の「介護離職」が問題になっている。
- 介護は極めてプライベートな問題と考え、会社に相談しづらい状況があるため、仕事の継続にあたって、不安を抱えている人が多くなっている。
- 又、介護するにあたっては、様々な費用がかかり、一度離職してしまうと、安定収入を失うことで、生活も不安定となる。又、40代～60代であると、日本の雇用慣行では、再就職が困難なケースも多い。

- ・高齢化
- ・核家族化
- ・就業構造の変化
- ・女性の就労
- ・未婚率の上昇



『仕事継続を可能とする介護と仕事の両立支援のあり方』
～従業員介護ニーズに関する調査報告書～(東京大学社会科学研究所より)

12

6. 補足 ～背景・理由～ 2/3

健康

- メンタルヘルス
 - ・精神疾患により医療機関に雇っている人は増加傾向。300万人を超える
 - ・生涯でうつ病にかかる人は15人に1人
 - ・うつ病にかかる人は男性は30代～40代、女性は30代～40代・60代に多い
 - ⇒働き盛りの年代の人が多い
 - ・メンタルヘルスケアに取り組む企業は約6割、増加傾向。大企業ほど休業後の復職率が高い、小規模企業ほど復職率が低い傾向 (H25年厚生労働省「労働安全衛生調査」)
- がん
 - ・70歳までに男性は5人に1人、女性は6人に1人ががんに罹患する時代
 - ・医療技術の進歩による生存率の上昇
 - ・治療と仕事を両立する必要性 ⇒H24年のがん対策基本法に盛り込まれる
 - ・がんになっても安心して働ける社会の構築の必要

13

6. 補足 ～背景・理由～ 3/3

育児

- 女性の社会進出: 女性で有配偶者の労働力率上昇傾向 → 共働き世帯増加
(※厚生労働省発行「平成24年版 働く女性の実情」より)

↑ ↓
その一方で…

- 第一子出産前後の女性の継続就業率は38%と昭和60年以降ほとんど変化がなく、女性の出産後の継続就業は依然として難しい状況にある
(※厚生労働省発行「平成22年版 働く女性の実情」より)
- 世帯構成の変化: 子どもがいる核家族世帯が増加傾向、子育て経験を持つ祖父祖母と共に暮らす三世代世帯は減少傾向
(※「平成24年 国民生活基礎調査」より)
- 職場や家庭、地域では、男女の固定的な役割分担意識が残っている場合もある。
【夫の家事分担】ゴミ出し42.1%、炊事19.4%
【夫の育児分担】常勤の妻が育児の80%以上を担う割合が57.5%
(※厚生労働省発行「平成22年版 働く女性の実情」より)

チーム名	WLB
メンバー	鮫島一彦／清水綾乃／菅森朝子／田中あゆみ／森直美／横田祥子
検討テーマ	誰もが“働きやすい豊島区”をめざして
活動状況	<p>●WLB推進認定企業へWLBに関する取り組みのヒアリング 日時：8月20日(水)18:00~19:00 訪問先：株式会社ゼネット 四元千佐子様</p> <p>●チーム打ち合わせ(各日3~4時間程度) 日程：8月13日(水)、9月12日(金)、10月1日(水)、10月29日(水)、11月26日(水)、12月2日(火)</p> <p>●ワンポイントアドバイス 日時：11月26日(水)18:30~19:30</p>
感想	<p>〈横田〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中ではありましたが、プランとしてまとめ上げることができ、達成感を得ることができました。 ・バックグラウンドが異なる人同士、さまざまな考えがあり、おもしろかったです。 ・調査や打ち合わせをする中で、WLBの重要性に改めて気づかされました。 ・各チーム、個性豊かなユニークなプランの提案ができたように思います。区には、是非、実現を真剣に検討してもらいたいと思います。 ・ヒアリングに応じてくれた株式会社ゼネット様を始め、事務局やアドバイザー委員の方々に改めて感謝します。豊島区、会議に出席して検討して下さった高野区長ならびに多くの課長様方、会議で声をかけてアドバイスをして下さった他のチームの皆さん、本当にありがとうございました。 <p>〈田中〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマを決め、調査・資料集め等行い、まとめるといった作業は学生以来の作業であり、チームのメンバーと時間を合わせ話し合いの機会を設けることは大変でしたが、有意義な時間を過ごすことができました。 ・他の業種の方々との関わりを持つことができ、各々の生活状況におけるWLBの必要性を考える、良い機会となりました。 ・F1会議最終日の翌日、日経新聞等への掲載があったりと注目度の高さも伺われ、嬉しく思います。 <p>〈菅森〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バックグラウンドの異なる人たちと意見を出し合い、プランを作っていく過程は発見や学びがあり、実りの多いものでした。 ・これまで自治体の視点から見たり考えたりした経験がなかったので新鮮でした。自治体の方がどのような視点で仕事をされているのか垣間見ることができました。 ・F1会議のプランの結果が今後の区政にどう反映されていくのか、期待しています。

〈鮫島〉

- ・消滅可能性都市という危機から生まれた会議でしたが、多くの方が色々な事を調べたり、考えたりすることで、豊島区が一体となった気がしました。
- ・ワーク・ライフ・バランスチームのメンバーとして参加した今回は、自分自身の働き方についても、考えるキッカケとなりました。
- ・今回は、区の職員の方が、質問やアドバイスを含め、様々な場面で、真摯に対応してくださったので、有難かったです。今後とも、色々対話できる機会を楽しみにしております。

〈清水〉

- ・委員のメンバーは、萩原先生を始めとし、在住、在勤、在学、区の職員の方々等がいらっしや、一つの物事を多様な角度から考えることができ、貴重な経験となりました。
- ・プランの打ち合わせについても、チームのメンバーで意見を出し合い検討し、さらに事務局、アドバイザー、他の委員の方々から意見をいただくことで、回を重ねるごとに少しずつプランの道筋が見え、最終案をまとめることができました。
- ・日本創成会議による報道発表への豊島区の対応の速さと、私たちの意見をできる限り区政に反映して行きたいという真摯な姿勢が伝わってきました。また、F1委員の方々も、本気で豊島区をより良いまちにしていきたいという気持ちを感じられ、今後もこのように様々な人が区政に参加できるような機会を作っていただければと思います。
- ・ご協力をいただいた多くの方々に感謝するとともに、WLBチームの皆さんに感謝しています。

〈森〉

- ・仕事の合間を縫って夜や日曜に打ち合わせや会議、調査を行うのは大変でしたが、市民が区政に参加するということは本来このように仕事や家事の合間を縫ってやっていくことなのだと区政参加の責任を感じることができました。
- ・F1会議の事務局の方々や各部署のアドバイザー委員の方々、萩原先生、他のチームの委員の方々に支えて頂き、プランをまとめることができ、感謝致します。
- ・他のチームの方々も豊島区を住みよい街にしようという熱意がある方ばかりで毎回の会議で他のチームの発表を伺うのが楽しみでした。
- ・WLBチームの方々とも率直な意見交換ができ、自分自身のWLBの悩みなども打ち合わせのどさくさに紛れて聞いて頂いたりして、不思議な縁で繋がれたことをありがたく感じております。